

共立女子第二中学校

2024年度

入学試験問題（2回PM）

【 国 語 】

試験時間 50 分

【 注 意 】

- 1 試験開始の合図があるまで、中を見てはいけません。
- 2 問題は一～三で、全部で12ページです。試験中によごれや不足しているページに気づいた場合は、手をあげて監督かんとくの先生を呼んでください。
- 3 解答はすべて解答用紙にはっきりと記入し、解答用紙だけを提出してください。

一、次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

カブトムシにあつて他のほとんどの昆虫にない特徴の一つは、言うまでもなく、オスの大きな角です。彼らが角を持つ理由は、彼らの餌と関係があります。カブトムシやクワガタムシなどを採るために私たちが広大な林の中から良い樹液場を探すのは苦労しますが、いくら虫たちが優れた嗅覚を持っているとはいえ、彼らにとつても餌場を見つけ出すのは容易ではありません。たくさんの木があつても、樹液の出る木はわずかにしか存在しません。樹液場は餌場であるだけでなく、オスとメスの出会いの場でもあります。そのため、樹液場には多くのカブトムシが群がることになります。オスはせっかく見つけた餌場やメスを勝ち取るために、他のオスと戦う必要があります。けんかの際は、大きな武器を持つオスほど勝率が高く、結果的に多くのメスと交尾し、多くの子を残すことができます。カブトムシやクワガタムシのみならず、ヤセバエやケシキスイなど、樹液場に来る昆虫の多くが武器を持っているのは偶然ではありません。どの種類も、貴重な餌場を勝ち取るために、②を進化させてきたのです。

カブトムシのけんかをよく観察してみてください。

③

熊手のような形をした日本のカブトムシのオスの頭部

(1)

の角は、そのような戦いにもつてこいの形をしていることから、けんかの様式と角の形はリンクして進化してきたと考えられます。

A

図鑑などには、カブトムシがクワガタムシを投げ飛ばしている写真や絵がよく登場します。私も子どもの頃に、カブトム

シをノコギリクワガタなどのクワガタムシと対戦させて遊んだことがあります。しかし、④本来カブトムシの角はクワガタムシなどの

他の昆虫を投げ飛ばすためのものではありません。あくまでも、同種のオスを打ち負かすために進化してきた武器です。Bカブ

トムシとクワガタムシの活動のピークのシーズンはずれているため(クワガタムシがカブトムシを避けるためと言われています)、

両者が野外で出会う機会は、カブトムシのオスどうしが出会う機会に比べれば多くありません。C、クワガタムシ vs カブトム

シのような異種間対決は、最強の昆虫を決めたい子どもにとつて夢がありますが、⑤進化という視点に立つと、残念ながらそれほど意

味のある実験とは言えません。D同種どうしが対決したときの行動を観察する方が、武器の進化について多くの情報が得られる

はずです。

ここで、カブトムシはなぜオスしか角を持たないのか疑問に思う人もいるかもしれませんが。メスどうしが樹液場で頭部を押し合いけんかするシーンを見かけることがあるので、メスが角を進化させても良さそうに思えます。しかし、カブトムシだけでなくクワガタムシやシカ、カニなど、他の動物を見ても、より大きな武器を発達させているのはメスではなくオスの方です。これには、武器を作るコストが関わっています。けんかに勝つためには大きな武器が必要ですが、それを作るためには多くのエネルギーが必要です。メスが大きな武器を作ろうとすると、繁殖に割くエネルギーが目減りし、⑥ ことになります。そうになると、自分の遺伝子を残すうえで不利になります。(中略) オスは、大きい角を持つことで、それを作るためのコストを上回る利益が得られます。これが、多くの動物で、オスの方がより発達した武器を進化させた理由です。

⑦ カブトムシの形態のほかのユニークな特徴として、オスの方がメスよりも大きな体を持つことが挙げられます。これは昆虫としては例外的であり、他の多くの種では、多くの卵を産むためにメスの方が大きな体を進化させています。カブトムシの場合、オスの大きな体は、角と同様、他のオスとのけんかを通して進化してきたと考えられています。けんかに勝つためには大きな武器を持つだけでは十分ではなく、それを使いこなすためのパワーが必要になります。そのため、大きな武器と連動して、大きな体が進化してきたと考えられます。

〔小島渉『カブトムシの謎をとく』による〕

問一 ①「樹液場」の役割を本文中より二つ探し、それぞれ五字以内でぬき出しなさい。

問二 ② にはあてはまる語句として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア ライバルと戦うための武器 イ 大きな餌を得るための武器

ウ 天敵を発見するための嗅覚 エ 良い餌場を探すための嗅覚

問三 ③ には以下の文章が入ります。文脈に合うように順序を並べかえ、記号で答えなさい。

ア このように、瞬間的な爆発力で相手を投げ飛ばすようなけんかのスタイルは、ヘラクレスオオカブトなどの外国のカブトムシはあまり見られません。

イ 相手を木の幹からすくい上げ、引きはがすためです。相手も引きはがされないように、頭部を下げたてて応戦します。

ウ しかし、一瞬の隙を突き、相手の体の下に角を挿入するやいなや、勢いよく頭部を後方にひねり、相手を投げ飛ばします。

エ 最初にオスは必ず相手の体の下に角を入れようとしています。

問四 A D にあてはまる語句として最も適するものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア そもそも イ それよりも ウ そのため エ ところで

問五 ④ 「本来カブトムシの角はくものではありません」とありますが、本来カブトムシの角は何のためのものですか。本文中の語句を使って説明しなさい。

問六 ⑤ 「進化という視点」とありますが、どのような視点ですか。説明として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 様々な種類の生き物が生きている林のような環境で、オスとメスがどのように影響を与えあっているのか考える視点。

イ 今後、どの種類の生き物が昆虫界の王になるのかを、他の昆虫とのかかわりの中で考えていくという視点

ウ 同じ種類の生物が、他の種類の生物に対しどのように攻撃を仕掛け、防御するかを確かめるといふ視点。

エ 生き物の形態や行動が、生息する環境でより有利に生き残れるように作られ、世代間で受け継がれているとみる視点。

問七 ⑥ にあてはまる語句として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア けんかに負ける イ 産卵数が減る ウ 角が柔らかくなる エ 空腹になる

問八 ⑦ 「カブトムシの形態のほかのユニークな特徴として、オスの方がメスよりも大きな体を持つことが挙げられます」とありますが、なぜカブトムシはこのようなユニークな特徴を持つようになったと言えますか。本文中の語句を使って説明しなさい。

問九 本文のタイトルとして最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア カブトムシとクワガタムシ イ オスとメスの出会い

ウ オスの角と大きい体 エ 多くの虫たちと進化

二、次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

〔主人公(語り手)は都会で働いていたが、年若い両親のために仕事を辞めてふるさとに戻り、そこで交通不便な地域を小さな車で巡回する移動スーパー「ヒマワリ号」の仕事を始めた。集落の人たちからは「ヒマワリさん」と呼ばれている。〕

① その停車場には早めに着いてしまったが、既に女性客がひとり待っていてくれた。高田久子さんだ。たぶん六十代半ばくらいだろう。ヒマワリ号に載せていない布巾やスライサーなどを頼まれたことがあり、そのときに名前と電話番号を知った。運転席から降りて準備を始めると、久子さんがすつと近づいてきた。

「ヒマワリさん、あんた山北地区も回っておられるんか？」

なぜか早口だった。久子さんは、ほかの女性たちと違って無口で、どちらかというところ、あまり笑わない性分だ。

「はい、山北地区なら回ってますけど？」

釣られて早口で答えていた。荷台のドアを開ける間も、久子さんは後ろにびったりついてくる。個別注文があるのなら、あとにしてほしいのだが。

② 「あのね、その地区に私の娘が住んどるんやけどね、うちの娘もヒマワリ号の買い物に出てきとるんやろか」

「娘さんですか？ どんな感じの方でしょうか」

「うちの娘は身長が百五十八センチくらいで、ちよつとぽっちゃりしとる」

ほとんどの女性がそれに当てはまるような気がした。

「どの人なのか、ちよつとわかりませんけど……」

野菜や果物の乱れたところを並べ直し、レジを出して用意した。見渡すと、あちこちの家から、こちらへ向かって歩いてくる女性たちが見えた。久子さんは周りをちらりとうかがってから、身体がびったりくつつくくらいに近寄ってきて、財布の中から写真をさつと取り出した。

「うちの娘じゃ」と言ってから、すぐに引^ひつ込^こめた。一瞬^{いっしゆん}だったが、見覚えのある女性だった。

「その人なら知ってますよ。いつも買い物していただいています」

そう答えると、久子さんの硬^{かた}かった表情が柔^{やわ}らいだ。

「元気にしとるようやったか？」

「ええ、元気そうですけど？」

そう答えながらも、何が知りたいのかがわからなかった。何か心配なことがあるのなら、電話してみればいいのと思う。そもそも娘さんが住む集落まで、ここからたったの三キロしか離^{はな}れていない。

③ が顔に出たのだろうか、久子さんは小さい声で言った。

「疎^{そえん}遠^{えん}での。もう何年も会つとらんじゃ」

「えっ？」

何年も？ すぐそこに住んでいるのに？

そう尋^{たず}ねたかったが、あまりプライベートなことに口を出すのも悪い。

「小さい子供がおるんやけど、あんた、見たことあるか？」

「ええ、買い物に出てきてくださるときは、いつも女のお子さんと一^{いっしょ}緒^{じゆ}ですよ。可愛^{かわい}らしいお子さんですね」
そう言うと、久子さんの顔が更^{さら}にほころんだ。

「もう大きくなったんじゃろうなあ。もう四^よ歳^{さい}やから」

「おしゃべりがお上手ですよ」

本当は上手どころか、小憎^{こにく}らしいほど口が達者だった。

——おじちゃん、いつも同じ服、着とる。それしか持つとらんのか？

——そろそろ床屋^{とこや}に行った方がええよ。

会うたびに、ご親切にも忠告してくれるのだった。

「あのお嬢ちゃんはおカステラパンが大好きですよ」

「カステラパン？」

「ええ、これです」

④ 菓子パンを指さすと、久子さんは手に取ってしげしげと眺めてから、「そうか、あの子はこんなんが好きなんか」とつぶやきながら、腕にかけていたレジカゴに放り込んだ。

「実はな、ここだけの話じゃけど、娘は私のことをごっつい嫌つとる」

「そんな……」

喧嘩でもしたのだろうか。だが、何年も会っていないということは、ちょっとやそつとの口喧嘩ではなさそうだ。かなりこじれているのだろう。

「結婚に反対なさったとか？」

そう尋ねてみると、驚いたように目を見開いてこちらを見た。

「そうか、うちの娘がヒマワリさんに、^⑤ そんなことまで話しとったとは知らなんだ。ヒマワリさんには心を許しとるんやな」

「は？ いえ、そうじゃないですよ」と慌てて言った。「当てずっぽうで言っただけです。すみません」

「いいや、あの娘はそう簡単に心を開かん子じゃから、あんたは相当信頼されとる」

「ですから違いますってば」

「あの娘はああ見えて、しっかりした頑張り屋なんじゃ」

「それはわかります。いつもメモを片手にてきぱきと買い物されてますから」

「そうじゃろうなあ。あの子は小学校のときから……」

久子さんがそう言いかけたとき、他の買い物客たちが賑やかにおしゃべりしながら近づいてきた。久子さんは、まだ何か言いたそうだったが口を閉じてしまった。

(中略)

あれから久子さんは、誰だれよりも早くヒマワリ号を待つようになった。他の客が来るまでの短い時間に、娘さんや孫の様子を尋ねてくる。先客がいる日は、こちらをじっと恨めしそうに見るので、何か悪いことをしたような気になって困った。そういうこともあって、娘さんの地区を回ったときには、それとなく様子を観察するようになってしまった。

その日は、娘さんが遠慮えんりょがちに話しかけてきた。

「ヒマワリさんは、朝山地区も回っておられますか？」

「はい、回ってますけど？」

「そこに私の実家があるもんやから」

久子さんのことなら知ってますよと、喉のどまで出かかるが、話してよいものかどうか迷う。常にポーカーフェイスでいることが、あつさりした関係を保つには必要で、そういうのを自分の商売の基本に据すえようと当初から思っていた。だがその一方で、客の家族構成や内部事情までこまごまと知って世話を焼く千映里*のようなやり方もある。一長一短なのだろう。会社勤めを辞めて、上司からの理不尽な命令などがなくなり、人間関係に夜も眠れないほど悩むということはなくなった。だが、商売を始めると、客との関係が新たに生まれる。この頃になると、会社での激務や、年功序列の人間関係に三十年も耐たえてきたことが、皮肉にも自信につながっていた。どんな苦勞も乗り越こえていける気がした。世の中には、どんな経験でも人生に役立つと、まことしやかに言う人がいるが、それはどうやら本当らしい。それがいいことかどうかは別として。

⑥「もしかして、あなたは朝山地区の久子さんの娘さんではないですか？」

本当は知っているのに、白々しく尋ねてしまった。

「えっ、どうしてわかるんです？」

「目元が良く似てるから、そうかなと思って」

そう言うと、硬かった顔つきが少し緩ゆるんだ。

「びっくりです。よくわかりましたね。それで、母は元気でやってるんでしょうか」

「お元気ですよ。あなたのことをいつも自慢じまんしておられます」

「自慢？ 私のことを？ まさか」

目を見開いて、じっと見つめてくる。

「本当ですよ。 ⑦ だって」

「嘘うそでしょう。私は母に褒ほめられたことなんて一度も……」

一転して気弱な表情になった。

「お母さんが心配しておられましたよ」

そう言うと、いきなり怒いかりを含ふくんだ顔つきになった。口を真一文字に結び、手に取った茄子なすを睨にらみつけている。まずい。

「あ、すみません、差し出がましいことを言ってしまったようで」と慌わてて言った。

娘さんがすつと顔を上げた。怒おこっていると思おもったが、何かを堪たえているように見えた。

「あのう、ヒマワリさんに変かなこと頼たのんでいいですか？」

「はい、何なになりと」

⑧ 「娘むすめができて初めてお母さんの気持ちきもちがわかったって、伝えてもらえますか」

「えっ？ ええ、もちろん。必ず伝つえます」

伝言係でんごんけいになるのは一向いっこうに構かまわないのだが、たった三キロしか離はなれていないのだから、⑨ と思う。とはいえ、気恥きぢずかしくて面おもてと向むかっては言いえないのだろう。

「あ、やっぱり手紙書てがみかこうかな」

「それがいいです。俺おれみたいな不調法ふてうはうなオジサンじゃあ、うまくニュアンス*が伝つわるかどうか自信じゆんないですから」
そう言うと、フツツと娘むすめさんは笑わらった。

「ママ、いつまでおしゃべりしとるん？ 早はやうカステラパンかすてらぱん買かうてよ」

女の子が母親ははの長いスカートスカートを引ひつ張はりながら、こちらをキツと睨にらんだ。

問四 ④「菓子パンを指さすと、く腕にかけていたレジカゴに放り込んだ」とありますが、この時の行動から伝わる「久子さん」の心情として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 仕事の最中で忙しいのにあれこれ話しかけて作業のじやまをしてしまったことを申し訳なく思っている。

イ いままで知らなかった菓子パンの種類があることを知り、この機会にぜひ味見してみようと考えている。

ウ 会えないままの孫の好物と教えられたので、そのパンを買うことで孫に近づけるような気がしている。

エ 孫と娘の住む集落に実際に行くことを決心し、孫の好物を手土産に持っていつてあげようとしている。

問五 ⑤「そんなこと」の具体的な内容を「くしたこと」につながるように、本文中より五字でぬき出しなさい。

問六 ⑥「もしかして、あなたは朝山地区の久子さんの娘さんではないですか？」について。

I この対応は、本文中にある二通りの商売のやり方、A「あっさりした人間関係を保つ」とB「客の家族構成や内部事情までこまごまと知って世話を焼く」のどちらか。記号で答えなさい。

II この対応をした理由として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 以前の仕事で、長年苦労を重ねながらも、人間関係をのりこえてきた自信があったから。

イ 「久子さん」とその娘のこじれた親子関係にまきこまれると、商売にさしかかえるから。

ウ 移動スーパードという新しい仕事でお金をもうけるために、得意先を増やしたかったから。

エ 地元の人間関係にはあまり深く関わらないほうがよいと「千映里」から忠告されたから。

問七 ⑦に当てはまる内容を本文中より十字でぬき出しなさい。

問八 ⑧「娘ができて初めてお母さんの気持ちが変わったって、伝えてもらえますか」とありますが、「娘さん」と「久子さん」の似ているところとして、最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア だらしない暮らしぶりなのにプライドは高く、周囲に対して弱みを見せないとこころ。

イ ここまで親子関係がこじれてしまったのは相手のせいだと、心底うらんでいるところ。

ウ 実は互いに相手を大切に思っているのに、すなおに気持ちを伝えるのが苦手なところ。

エ 互いに離れて暮らしているうちに、会いたいと思う気持ちがうすれてしまったところ。

問九 ⑨ にあてはまる言葉を考えて、十五字以内で答えなさい。

問十 食品や日用品を販売する「ヒマワリ号」が、販売以外に村で果たしている役割として、あてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 定期的な訪問で人間関係を結びつける役割。
イ 生活面の不便さを補い村の存続を守る役割。
ウ 店で売れ残った食品ロスの量を減らす役割。
エ 免許や車を持たない地域住民を支える役割。

三、次の各問いに答えなさい。

問一 次の①～④のことわざの「続き」として最も適するものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 柳やなぎに
② 花も
③ 出る杭くは
④ 人を呪のろわば

- ア 穴二つ
イ 打たれる
ウ 雪折れなし
エ 実もある

問二 次の①～④の俳句が表す季節として最も適するものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。（記号は一度しか使えません）

- ① 赤とんぼ夕暮れはまだ先のこと
② うぐひすの鳴くやちひさき口明けて
③ 薄目うすめあけ人嫌きらひなり炬燵こたつ猫ねこ
④ ゆふかぜに頭吹ふかれて燕つばめの子

- ア 春
イ 夏
ウ 秋
エ 冬

問三 次の①～④の熟語の構成の説明として最も適するものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 延期 ② 補足 ③ 善悪 ④ 敬意

- | | | |
|---|--|--------|
| A | 同じような意味の字を組み合わせたもの。 | (例) 良好 |
| B | 反対の意味の字を組み合わせたもの。 | (例) 大小 |
| C | 上の字が下の字を修飾 <small>しゅうしよく</small> しているもの。 | (例) 緑色 |
| D | 下の字が上の字の目的語になっているもの。 | (例) 登山 |

問四 次の①～④の文の——線部の漢字をひらがなに直しなさい。

- ① 美味な梨を頂たくく。 ② 近くの果樹園くだんに行く。 ③ 市役所の庁舎ちやうしゃに向かう。 ④ 学校を警備けいびする。

問五 次の①～④の文の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなをひらがなで書きなさい。

- ① 山の中にイズミいずみがわく。 ② ソンゾクそんぞくを希望する。 ③ 情報のシヨリしより速度を上げる。 ④ アタタカイあたたかい春の日。